

広域災害時の防災体制と

アマチュア無線

- (1) 地域防災と私とのかかわり
- (2) 初動活動体制の考え方
- (3) 情報収集、伝達通信網の概要
- (4) 伝達自己通信訓練報告
- (5) アイボール会とアマ無線伝達訓練
- (6) 阪神、淡路大震災発生、
一両日の交信記録 抜粋
FTZ-FM愛好会、各局です
- (7) 地震とアマチュア無線
FTZ-FM愛好会各局のレポート抜粋

1995, 10, 30

FTZ-FM愛好会
JJ3YUA (大正防衛隊の方)

代表 JQ3NVK 小中幸雄

地域防災活動と私とのかかわり

JJ3YUA JQ3MVK 小中幸雄

私は尼崎市消防団東大島分団、団員活動31年になります。消防団の基本理念

『自分たちの地域は自分たちで守る』

の通り、尼崎市消防団58分団、団員993人(籍)の中の東大島分団員として活動
火災出動、防災活動をすると共に地域内の防災啓蒙活動の大切なことがわかり

『火を消す消防より、火を出さない消防』

予防消防を目標に火災予防広報活動を始める。

1) 担当地域内火災予防広報活動 (昭和46年より 1971)

毎月1日20時より約2時間、担当地域内を消防ポンプ車で毎月1日は防火の日、
夜の10時は防火の時間、コンロの附近は火が出やすくなっていませんか？と
広報活動を続けて24年となります。(現在1日と第3土曜日の月2回実施)

2) 家庭防火推進運動 (昭和55年より 1980)

団員による家庭訪問による防火指導、年間200戸目標

消防団員3~4名でチームを組み家庭を訪問、防火防災についてお話しを聞いたり
防火指導をする。住居表示ができる“しおり”(119番に通報時そのまま読み取れる設置を
認めるしおり)の配布、地域住民との直接対話予防活動の理解を深めるのに効果有り

3) 地区別消防訓練の実施 (昭和56年より 1981)

消防署(尼崎市消防局)の協力を得て、通報、避難、放水、消火器操作、救急訓練を
住民の方と団員が協力して実施し訓練の大切さと、消防団活動を理解してもらい
協力を得ると共に地域防災を考える場としてきた。

4) 地域内の大島神社祭りの復活 (昭和46年より)

だんじり太鼓巡行 神社に奉納(お祭り) 農会と消防団、地域住民が協力して
だんじり太鼓の飾り幕新調(太鼓活動) (平成2年 1990)

以上の地域防災活動、消防団活動の広報と地域交流活動を推進してきた、自主活動
の場合、指導する方の環境づくりが大切である。消防団の場合は市行政、市消防局
であり担当地域消防署長の環境づくりで大きく左右される。S56年より数年間は
消防団有つての地域防災、消防団有つての消防局だと言われた指導者(消防長)がおら
れ 指導者と活動者の信頼関係の大切さがよくわかりました。現在の尼崎市消防団
はどうなんであるのか？せつかくの素晴らしい消防団を十分生かせる指導と活性化
を進めないとならないと思います。

5) アマチュア無線局開局 (平成1年 1989)

アマ無線開局と同時にJJ3YUA(尼崎市消防局)開局 春、秋全国火災予防運動
期間運用 430MHzで多くの交信の中で火災予防運動と消防団活動の話をして
FTZ-FM愛好会との出会いで広域災害時の防災体制とアマチュア無線 広域災害と
消防団、地域活動を考えて5年 1996.1.17日阪神、淡路大震災が1夢ではない

広域災害時の防災体制 (消防団、JJ3YUA、FTZ-FM愛好会及びU-般アマチュア無線局)

非常時の 初動活動…情報収集活動…救援、応援活動体制の考え方

地震の場合

JJ3YUA JQ3NVK

(1) ~ (5) 項目は 地震対人間の時間差 より (財団法人市民防災研究所)



JQ3NVK不在時 JK3BIYが隣局 他各局で開局願う

アマチュア無線活動体制

開局時期が難しいが おもいさって情報収集をする

アマチュア無線局開局 (JJ3YUA、救助活動を優先とする)
隣接地域の情報収集、各局に応援を求める

公共機関との連絡を密に
(消防、市、警察、ガス)

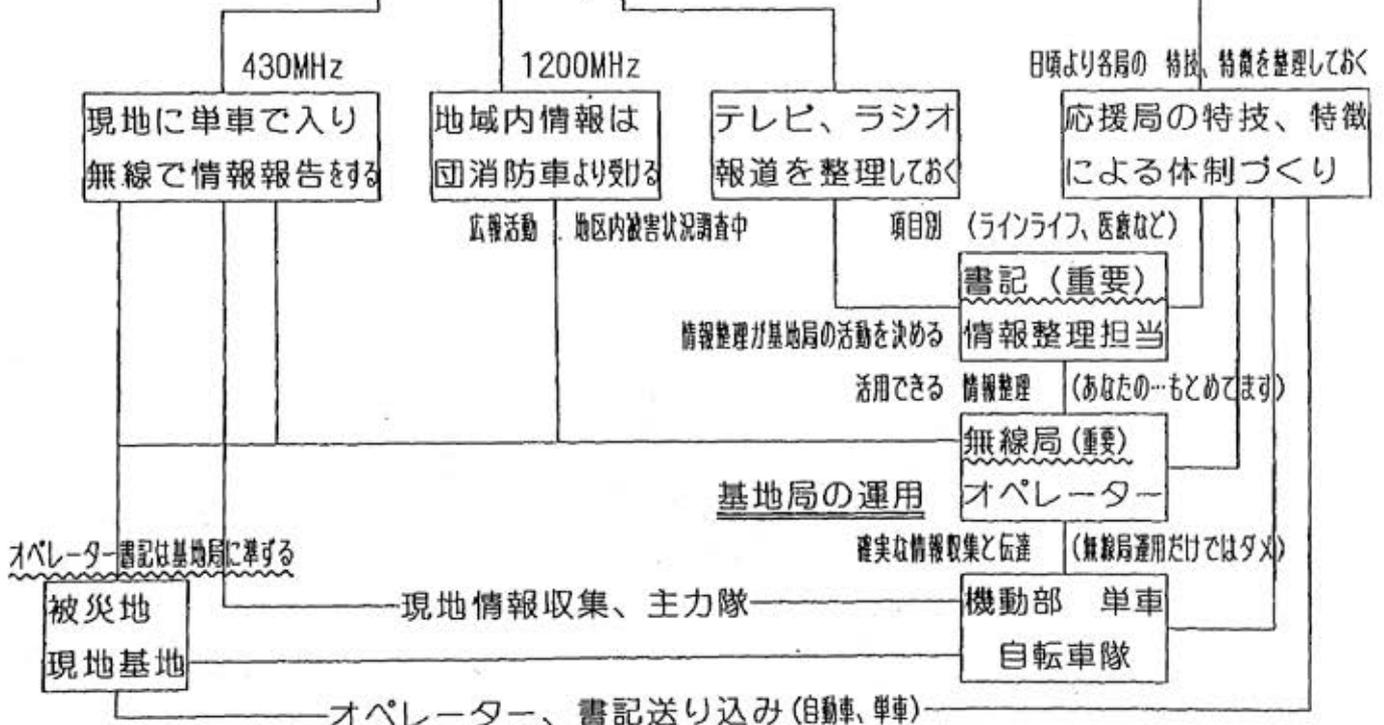
アマチュア無線基地を設置、
同時に対策本部設置 (少数となるはず)

単車 自転車 依頼
パソコン持参依頼

初動時は少数での活動となるが
以下の方法等で情報収集をする

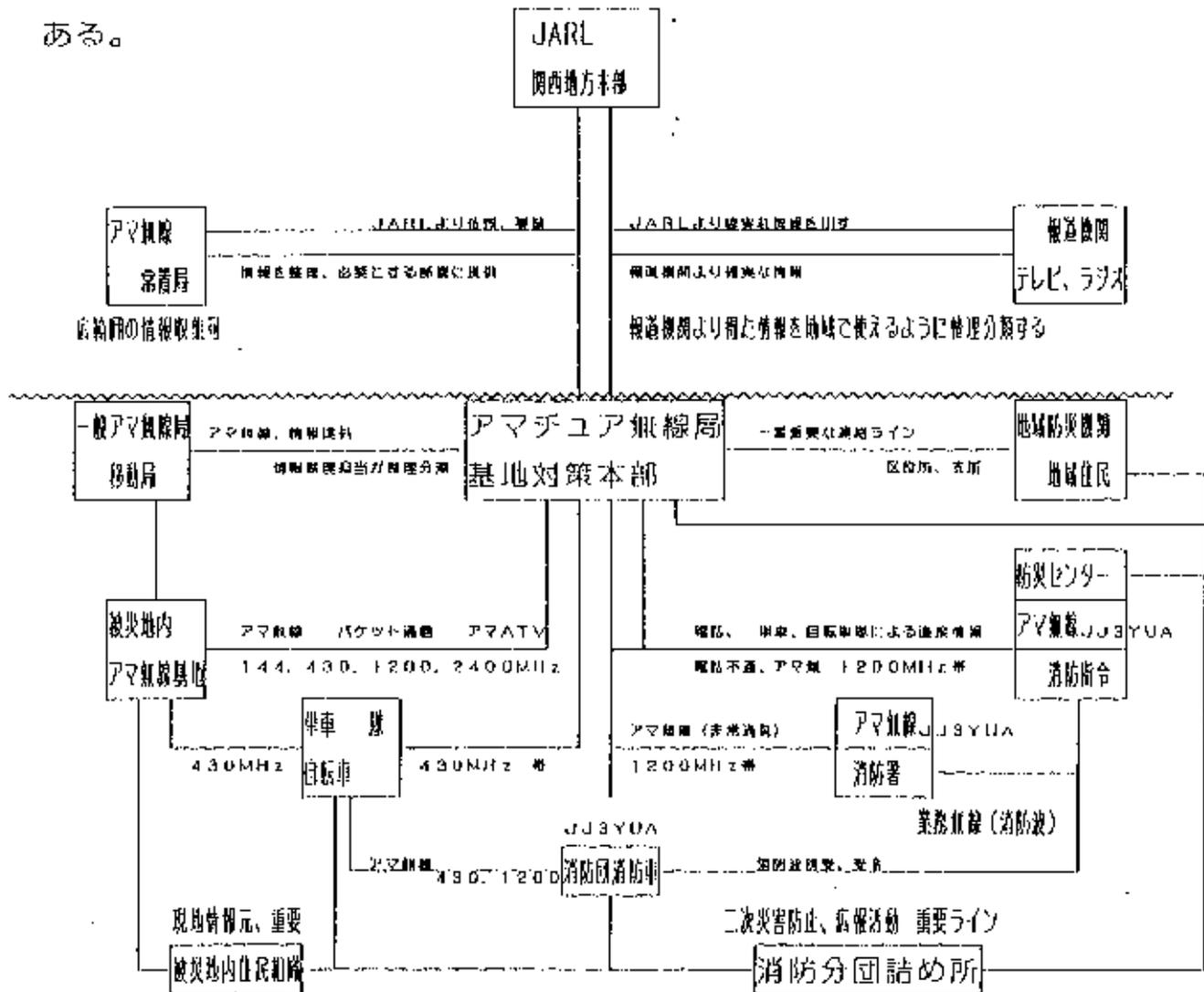
— 応援局導入 —

応援各局が集まり始まる
ハンディー機持参 自転車 単車がよい



下記の図表は、災害発生時、早い時期に自主立ち上げたマチュア無線局(雑草 6桁)を中心に想定した。

- 1) 当初の被災地内情報収集、伝達は単車、自転車隊などの移動局となるので普段から運用している、430MHz FMを使用する。(ハンディ機、リガ機で運用も検討)
- 2) 早い時期に被災地内にアマチュア無線現地基地開局に勤め開局後は基地対策本部と1200MHz FM 連絡波を設定、430MHzで送られてくる情報を現地基地で整理、基地対策本部へ1200MHz FM, で情報状況伝達をする。1200MHz, パケット通信、1200MHz, 2400MHz, アマチュアテレビ(ATV) 開局に勤め 情報の文字、映像化を計る。
- 3) 行政との連絡は可能な限り電話を使い、アマ無線 430, 1200MHz開局する(行政の理解が必要)
- 4) ~~~~~以下は自主開局~~~~~より上はJARLの体制が整い次第各アマ本部を統括する。
- 5) 左側が地域住民で右側は行政です。地域住民と行政機関の通信の中核はアマ無線である。



非常時はF T Z - FM愛好会とJ J 3 Y U A (雑草6桁) が主体での運用となる。

* 広域災害時、地域防災の中核は消防団で地域情報収集、伝達通信の中核はアマチュア無線であり、ありがたい！受入れ側と指導者の環境づくりが大切です。

災害救援活動、情報収集などの通信手段にアマチュア無線の活用について

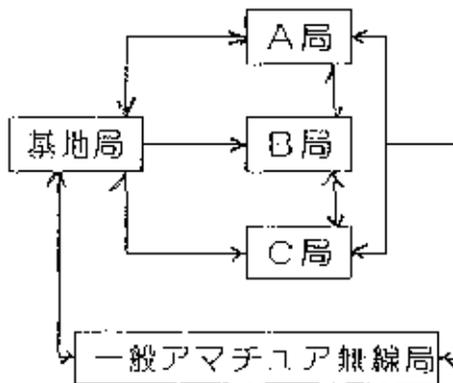
1) 災害時の救援活動に於けるアマチュア無線通信(助援、援通)の基本的考え方

非常通信とは、地震、台風、洪水、津波、雪害、火災、暴動、その他非常の事態が発生し、又は発生のおそれがある場合において、有線通信を利用することができないか又はこれを利用することが著しく困難であるときに人命の救助、災害の救援、交通通信の確保又は秩序の維持のために行われる無線通信をいう。

今回の大震災のように災害が広域に広がり電話なども非常に混雑をしている状況の中、救援、復旧復興活動にアマチュア無線通信を活用すれば非常に有効であると判断できる場合を想定した災害救援、復興通信を考えてみました。

(非常通信の定義については別途検討をしていただきたい)

2) アマチュア無線通信の特徴



*左図の様に基地局を中心に同じ周波数に設定しておれば同時に、多数の人に同じ内容を伝達することができる。

*同じ内容を同時に伝達できるので無線で協議、会議(ミーティング)ができる。

*常時受信状態にセットしておれば必要な時に伝達、応答通信ができる。

*交信中に他の局から割り込み情報を入れることができる。

*周波数を合わせて傍受している一般アマチュア無線局より支援情報を得る事ができる。(交信範囲は大阪府各市、淡路島を含む)

*業務無線と異なり運用周波数が広い。近距離であれば混信の中でも伝達可能である

*アマチュア無線局は、本来の職業を持ち(その道で丸)その上に無線技術を修得しているわけです。おまけに無線以外にも多くの特技を持ち、友人、知人の多い人の集まりです、こんなにたよりになる素人の組織なのです。

*ある意味ではアマチュア無線家は通信のプロである。(JQ3TWO 黙時に思ったことより)

3) アマチュア無線通信で出来る非常通信、情報収集伝達、災害救援活動

*災害地域内の状況を地域外に伝達出来る。

*各方面の多くの現地情報をリアルタイムで収集出来る。

*災害地内からの必要情報要求に対応出来る。(地域別ローカル情報)

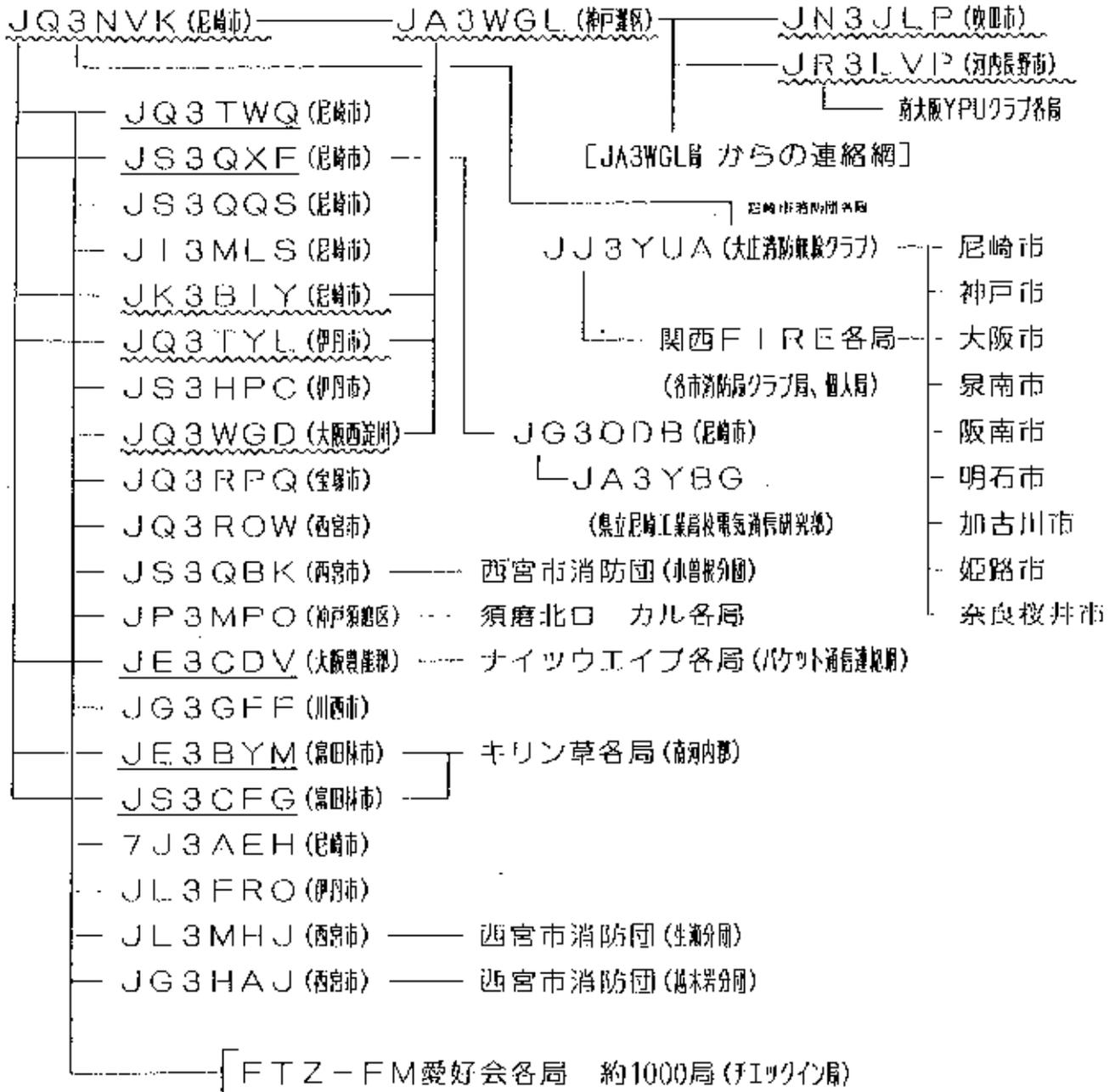
基地局の情報整理能力、オペレーターの運用経験が必要 アマチュア無線家は多くの特技をもつて活動するので可能である。

*移動局(E-ビル等)のルート案内、誘導、消防ポンプと筒先間の連絡通信。

広域災害（非常時）時の非常通信網

*1995年10月30日 現在の連絡可能、FTZ-FM愛好会関係

局はJA3WGL局と電話連絡可能であれば開局の確認をとる。



*左側はFTZ-FM愛好会を運営してきた各局と直接連絡局です。

局はJQ3NVK (JK3BIY) と電話連絡可能であれば開局の確認をする
FTZ、緊急連絡網(兼)

尼崎市地震対策総合訓練

アマチュア無線による自己通信訓練報告書

報告者 : JJ3YUA 大庄消防無線クラブ FTZ-FM愛好会
代表 小中幸雄 (JG3NVK) 尼崎市消防団東大島分団
〒660 尼崎市大島3-12-2 TEL 06-419-5898

まえがき : 1995年1月17日午前5時46分 淡路島を震源とするM7.2直下型大地震が発生、『阪神・淡路大震災』は兵庫県を中心に6502人(4/168)尊い人命と財産を一瞬に奪われる大災害に見舞われた。

被災地(神戸、芦屋、西宮、夙川、宝塚、明石、豊中) 特に西宮、芦屋市全域と神戸市(東灘、中央、兵庫、灘、須磨)では水道、ガス、電気、電話、ライフラインは壊滅し、交通、通信機関もマヒして、道路は自動車の渋滞で緊急自動車(消防、警察、自衛隊車他)も動くことができず、通信機関においては電話は不通で消防、防災、警察無線などは、ふくそう現象で管制不能状態であつたと思われる。比較的被害の少なかった隣接地域でも被災地内の被害状況が把握できず、まして被災地より少し離れた地域、例えば大阪市内、堺市、大阪湾対岸などでは、大きな災害が発生していることは判っているが想像もつかない被害状況下あつたのは後日報道により知ることになつたのです。私も芦屋市内のJR列車内で被災して、芦屋市内から国道2号線で尼崎市までたどりついたので、被害状況は自で見える範囲は判りましたが、この被害の大きさを予想することはできませんでした。当日17日夕方までは消防団活動、附近の整理でアマチュア無線による情報収集 情報伝達、通信はできなかつたのですが、19時49分より430MHz-F3モードにて開局各方面(北摂)各局の安否、被害状況の把握につとめ20局と交信、各局の無事を確認できたのですが、尼崎市は地域により被害差が大きく 大庄地区は比較的被害が少なく、ほつとしている状況下(篠原、豊、須磨、加藤)でのアマチュア無線の運用でした、交信ができた局は家が傾いたが家族は無事、水を入れるポリカンがない、、大丈夫、、、、です、
実は、電波を出せない(北摂)地域の住民の方々が大変だったのです。遠く京都、奈良、富田林、大阪方面からは兵庫県各局の安否を気遣つての交信で、私たちの地域は大丈夫で芦屋市、西宮市方面は被害は大きいです。この様な範囲の状況伝達しなかつたのは、全体の被害状況が把握できていなかつたからで残念です。

地震発生から1～2日間は電話が不通で被災地では通信が全く絶たれた地域があつたのです。

地震後、アマチュア無線を運用できる局(北前港の少い被災地)が、非常通信(目的通信)を行い、被害状況 災害情報収集と共に無被害情報も把握して(被害、無被害情報は移動モバイル局および衛星との交信)被災地内外に必要とする情報提供ができる 有効な通信手段であつたのです。

私達は、広域災害時の初動活動体制の中でアマチュア無線による災害情報収集は考えていたのですが、今回のような広域大災害の体験が無く非常通信の立ち上げが遅れたのは、考えていただけであつて活動する方法を身体で覚える訓練をしていなかったためです。

防災訓練の中に無線による広域情報収集、伝達訓練を盛り込む必要がある。(今まで一度も試みされていない) 公的機関の方は公務が優先すると思われるためアマチュア無線局(多数の局あり、多量勤務者が参加している)が最適です。ハム仲間が広域災害時の救援活動に果たす割合は大きいと思います、地震対策訓練、防災の日、他随時に自己通信訓練を実施し ハム仲間(アマチュア無線)の無線通信を主とした災害時に対応できる通信連絡網の確立と、アマチュア無線に新しい可能性を求めてまとめました。

- 訓練項目：1) 尼崎市地震対策訓練、自己通信訓練報告
JJ3YUA (大庄消防無線クラブ)
- ：2) 防災の日(9/1) 自己通信訓練報告
JJ3YUA
- ：3) FTZ-FM愛好会アイボール会での訓練
JQ3NVK
- ：4) 移動運用 報告
JQ3NVK
- ：5) 小電力運用報告
JK3BIY
- ：6) ハム仲間の体験レポート
- ：7) まとめ

尼崎市消防団副団長(畑畑)

各分団長殿

大庄消防無線クラブ(JJ3YUA) 地震対策総合訓練、自主参加の連絡

今回の地震対策総合訓練で、大庄地区消防団のアマチュア無線クラブ(JJ3YUA)は、大庄東中学校、校庭にアマチュア無線局を開局、一般アマチュア無線移動局(比、補助局を助ける)よりの付近交通状況、他情報把握の自己通信訓練を下記の要領で実施します。

記

運用場所 : 大庄東中学校、校庭 (地震対策訓練会場)
月 日 : 1995年8月29日
運用時間 : 10時 ころより
コールサイン : JJ3YUA (大庄消防無線クラブ)
運用周波帯 : 430MHz、1200MHz、F3

尚、当日の各電波運用状況により、どの様な状況、情報把握交信ができるか未知です。

阪神、淡路大震災において、アマチュア無線による情報交換、状況伝達など通信手段として有効でした。

FTZ-FM愛好会並びに大庄消防無線クラブも大震災時よりアマチュア無線を運用しましたが立ち上げが遅れ残念に思っています。

今回より訓練に参加して、何時でも活動できる体制づくりとしたい。

JJ3YUAは、過去5年間期間運用(春、秋の防災予備運動、年末総練習等)等で、約850局との交信実績があります。

アマチュア無線は、多くの局が聞いておられるので相当数の情報交換交信ができると思います。

今回の大震災には、当市が少し落ち着いた時点、2月12日より4月15日西宮市現地事務所でアマチュア無線担当(8J3AMR、震災復興支援局)として活動しました。(別紙参照)

以上

1995, 08, 03

大庄消防無線クラブ(JJ3YUA) 代表

東大島分団 小中幸雄

尼崎市地震対策総合訓練

アマチュア無線による情報収集、伝達通信訓練報告

95.10.01 JQ3NVK

趣 旨 : 地震等の広域災害時における災害情報、伝達にアマチュア無線が役立つ事は判っていたのですが、今回の阪神、淡路大震災時みんながはじめての体験で立上がりが遅れ通信も混乱、十分な活用ができなかったのです。この体験で日頃からの訓練の必要な事が判りましたので、訓練に参加ローカル周波数 (F3) モード、平日の運用実験(4機)と共に広域災害時の情報収集、伝達を行う通信連絡体制づくりの基礎とする。

運用場所 : 尼崎市市立、大庄東中学校、校庭 (地震対策総合訓練会場)

年 月 日 : 1995年(平成7年)8月29日

運用時間 : 10:00~13:00時

一ルサイン : JJ3YUA (大庄消防無線クラブ) OP JQ3NVK (小中)

運用周波数 : 144MHz 430MHz 1200MHz F3モード

通信方法 : 1) 任意の周波数でブレイクイン(交信中の局に割り込み交信を依頼する)方式 (BK, IN)
2) 呼び出し周波数で、交信周波数で指定しての CQ運用

電 源 : 携帯発電機(600W) 自動車用バッテリー2個 準備

無線設備 : 別紙参照方 (運用場所略図、アンテナ設置方法、設置時間)

交信局数 : 36局 (交信回数 38回)

交信フロー :

JJ3YUA (訓練現場基地局)

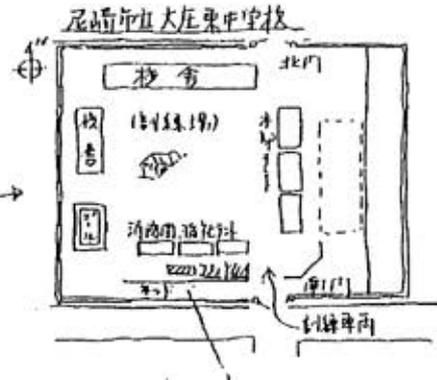
		144MHz			430MHz			1200MHz			JK3BIY (常置場所 小中)	
		JK3VQY連絡波 146.10						連絡波 1294.84			J13WVN (常置場所 森田)	
		CQ	BK, IN	CQ	BK, IN	BK, IN	BK, IN	CQ	BK, IN	CQ	BK, IN	CQ
		10時	10時	10時	10時	11時	11時	11時	12時	12時		
周帯		:04-:23	:30-:38	:46-:49	:56-:01	:02-:09	:23-:39	:48-:26	:35-:43	:57-:05		
波数		432.94	433.20	432.90	432.92	432.68	433.68	432.90	433.20	432.92		
名		JP3BUT	JA3WGL	JA3WGL	JG3DHL	JF3NVY	JJ3IBY	JK3DBX	J13SDW	JK3KIT		
		JE3ISY	JK3VAF	JF3WFH		JL3FCA	JK3CFN	J13WVN	JS3LGO	J03CCW		
		J13ERQ	JG1IHM	JL3EBB			JA3BJK	JK3SOY		JL3FLD		
		JG3EEN					JK3GYC	JQ3TYL				
		JE3WUK					JK3ITD	JL3FRO				
		JA3FM					J03SVC	JF3A0B				
		JP2XCM					JK3SVI	JL3DGI				

訓練場所 略図

移動無線局は校庭、南側に設置

兵庫県尼崎市菜切山37

尼崎市、市立大庄東中学校



アンテナの設置

アンテナは左図の通り南側面のネット支柱にGP、2本仮設

アンテナの仮設は私と妻(JK3BIY)の共同作業となり、次のような作業をしました。私がネット中段に上り胴綱をセット、両手を使え体制で下からJK3BIYが差し上げたアンテナを受け取ってネット支柱に固定。固定材料は、ワンタッチ結束材インシュロックで締め付ける方法を採用、2本のGPアンテナを1時間で設置できました。

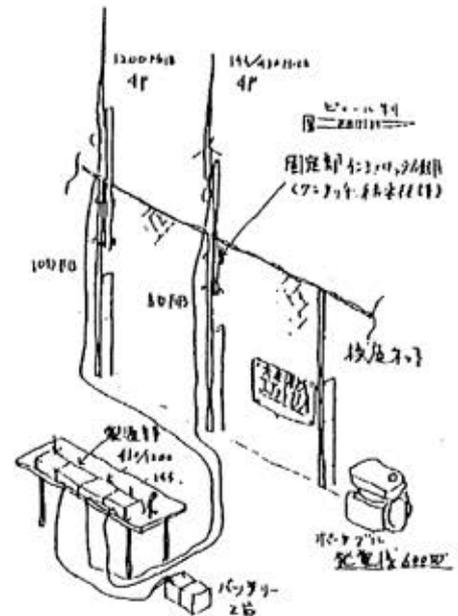
まとめ

アンテナはできるだけ高いところに応援者がいない想定で妻との共同作業の訓練としました。

女性局(JK3BIY)との共同作業で2本のアンテナを地上高約7mHに約1時間でセットでき、一人の協力者が大きな力となりました。

妻、恥ずかしかったができて良かった。(消防員の方が多くおられた)

*広域災害発生、非常時には、常置場所開局不能時、武庫川堤防上(GL、#6mH)にモバイルで開局、応援局を求め活動しやすい場所に非常通信移動基地を開局する。



1200GP (CA-1221S)

144/430GP (CX-908)

(JJ3YUA

大庄消防無線クラブ)

交信レポート

432, 94 MHz 10時02分～

こちらは、JJ3YUA大庄消防無線クラブです、尼崎市地震対策訓練会場移動局です、お聞きの局おられましたら、コンタクト宜しくと呼び掛けるも応答なし(平日、いつも使ってるので、*無線局ワザやで、使ってるかも知れないかも) いつもとは違う感じである！(JJ3YUA大庄消防無線クラブ、無線で活動してました?)

CQ運用に切り替え、呼び出し周波数で432, 94 MHzにてお待ちしますと呼び掛けをした！

10時04分～

JP3BUT/3 (西宮E-ビル) JE3ISY (岸和田、常置) JI3ERQ (尼崎、常置)
JG3EEN/3 (姫路、E-ビル) JE3WUK (西宮、E-ビル) JA3FM (宝塚E-ビル)
JP2XCM/3 (西宮、E-ビル)

7局と交信	常置場所	2局	—	岸和田市	JF3ISY	自宅に居られる事が多い
			—	尼崎市	JI3ERQ	勤務の関係で自宅に居られた
	E-ビル移動局	6局	—	西宮市	JP3BUT/3 JE3WUK/3 JP2XCV/3	
			—	松原市	JP3EEN/3	
			—	宝塚市	JA3FM/3	

自己通信訓練スタート 各局はいつも交信をしている各局である
心強く有り難く思いました。
ローカルの状況確認に十分です。

10時30分～11時01分 (433.20 432.90 432.92MHz)

こちらはJJ3YUA大庄消防無線クラブ 各局コンタクトよろしく…

JA3WGL (神戸、港区) JK3VAF/3 (大阪、府中野) JG1HUM (大江区)
JF3WFH/3 (神戸) JL3EBB/3 (八尾市) JG3DHL (尼崎市)

JA3WGL (神戸、港区) と交信 先程の周波数はその後モービル局のコールサインなしでの交信が始まったと…
情報が入った。(別の交信をワザしていたので、)

各周波数で呼び掛け各局と交信 少し遠い局と交信ができた。
(神戸港区、芦屋、大阪府中野、大江区、八尾市)

11時23分～ (433.50MHz)

当周波数はマナーを守って運用しているとの情報で各局向け呼び掛けた。

JJ3IBY (尼崎) JK3CFN/3 (京都、八幡市) JA3BJK (尼崎市)
JK3GVC/3 (西宮市) JK3ITDF/3 (宝塚市) JO3SVC (堺市)
JK3SVC (尼崎市)

順序よく各局よりレポートをいただきました。

非常時には各方面の確実な情報が得る事ができると思います。

9月1日 防災の日

アマチュア無線による情報収集、伝達通信訓練報告

95.10.06 JQ3NVK

趣 旨 : 地震等の広域災害時における災害情報、伝達にアマチュア無線が役立つ事は判っていたのですが、今回の阪神、淡路大震災時みんながはじめての体験で立上がりが遅れ通信も混乱、十分な活用ができなかつたのです。8月29日の^市尼崎市地震対策訓練で情報収集、伝達通信、訓練実施した経験を生かして、今回の通信訓練は交信中の各局のブレイクインタイムにブレイクインして運用時間、附近状況のレポートをお願いする。積極的に状況、情報収集を行い、活用(翻)の基礎とする。

運用場所 : 尼崎市大島3-12-2 JQ3NVK (仲輔、睦)

年 月 日 : 1995年(平成7年)9月1日

運用時間 : 05:46~

コールサイン : JJ3YUA (大庄消防無線クラブ) OP JQ3NVK (仲輔)

運用周波数 : 430MHz F3E-F

通信方法 : 1) 任意の周波数でブレイクイン(交信中の局に割り込み交信を依頼する)方式 (BK, IN)
2) 呼び出し周波数で、交信周波数で指定しての CQ運用

電 源 : 携帯発電機(600W) 自動車用バッテリー2個 準備

無線設備 : IC-2500 10W 地上高 14.5m 3X外CX-902GP

交信局数 : 40局 (交信回数 40回)

交信フロー :

JJ3YUA (訓練現場基地局)

430kHz

交信40局の一部です。

	BK, IN		BK, IN		BK, IN	BK, IN	CQ
時間帯	05時 :51	06時 :49	08時 :47	08時 :59	09時 :15	09時 :25	10時 :23
周波数	433.64MHz		433.96MHz		433.02MHz	432.98	433.46
局 名	JG3TU0/3 茨木市 名神	JL3FLD 真赤市	JN3JLP/3 大阪中央区	JK3XP0/3 青洲市	JL3BAM		
	JG5DAK/3 吹田市 名神	JK3WSM/3 亀岡市モーター	*JN3JLP 局は大阪中央区区役所訓練会場より		JE3QOK/3		
	JG2HDS/3 東灘区 深江	ハンディー機からの結着 この様な情報交換ができるのです					JG2HDS/3
	JH3XWG 東灘区	*今回の通信訓練での感想					JJ3ESL/3
	JR3LVP 羽内長野市	事情を説明すれば各局快く応答していただき					JN3JNN/3
	JA3WGL 灘区	イザという時には、430FM波で情報収集、伝達					
	JL3DJL/3 羽内長野市	が充分できる事が判りました。					

1) 95サマーアイボール会

『湯ったり愛ぼーる in 篠山』と題して

95. 8. 27 (Sun) 午前10:30 現地集合 兵庫県多紀郡 (軸線) 観音湯で行い
430MHzハンディー機持参で89局、家族を含んで100名以上の大アイボール会で
司会者が430FM サブ周波数を指定して無線で呼び出す、ハンディー機で各局が
ワッチして呼び出された局はハンディー機で自己紹介をする運用訓練を行った。
非常に騒がしい会場で確実に呼び出しができた。

多くの局が同時に聞き必要に応じて応答をする、同時に多くの局に伝達ができる
アマチュア無線の特徴と良さを各局が確認をした楽しいアイボール会でした。
この様な催しを通じ行動する方法をつかみ訓練して、イザという時に役立てたい。

2) 95サマーアイボール会写真渡し会 (別紙報告書あり JQ3TYL)

『湯ったり愛ぼーる in 篠山』の写真を渡す会が 9/23日武庫川の堤で行う
ことが決まっていた。ただ単に集まって写真を渡すだけでなく何かを試みてわと
の提案でカップメンと生たまごを持参していただき月見うどんを食べる会にした。
9/16日のFTZ-FM愛好会のオンエアミーティングのQSPタイムで各局に伝達
(JK3BIY様よりQSPをする) して伝達実験とした、結果は次の通りであった。

参加局 - 52局	}	一度の伝達が各局に伝わり自分の責任範囲は 自分でと！すばらしい結果でした。
玉子を忘れた局 - 5局		
箸を忘れた局 - 6局		
うどんを忘れた局 - 1局		

3) おでんぱ(お電波)パーティー

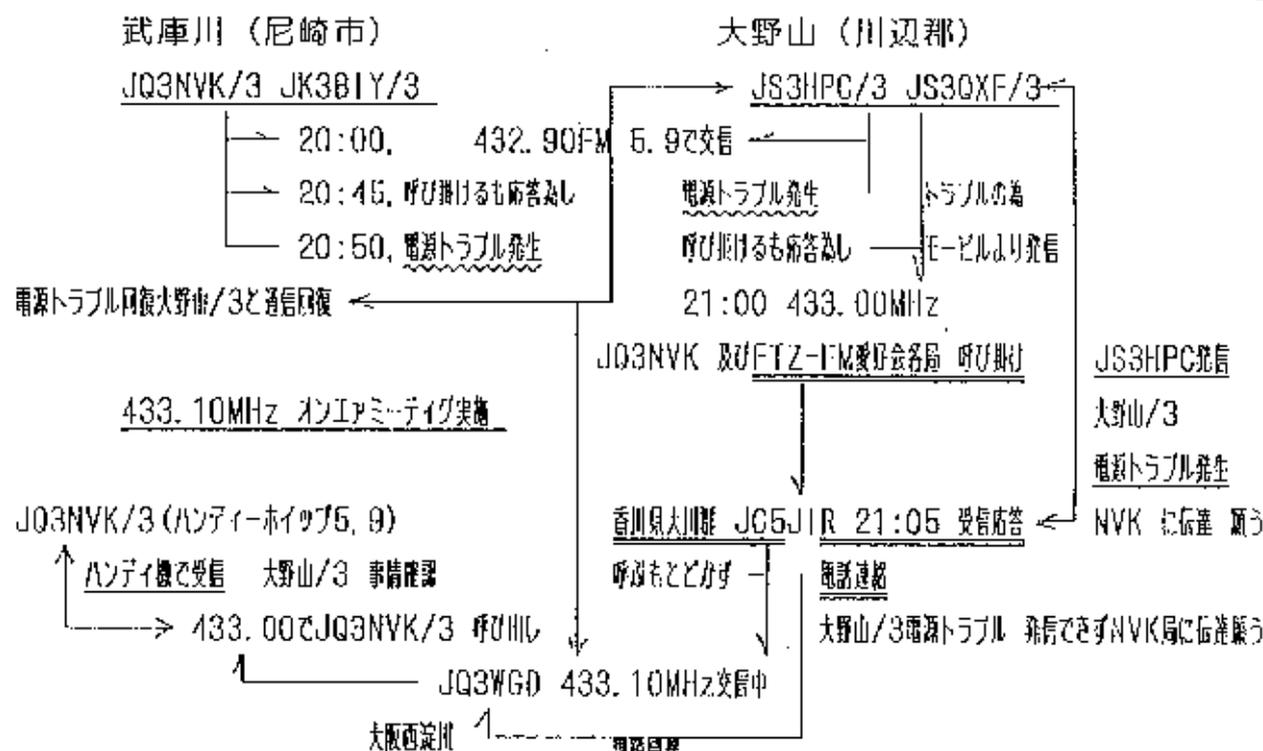
武庫川河川敷(兵庫県市)で恒例の「おでん」を食べて楽しくアイボールQSOを
『おでんぱパーティー』開催した。今回は河川敷にテントを張って受付もする
少し規模を大きく計画移動無線局も開局した、10/9日オンエアミーティング
(第287回) QSPタイムに各局に下記の電文を送信した。(発信JQ3NVK)

(記)

1) 日 時 - 1995. 10. 14 20:00	5) 持参する物 - 折りたたみ椅子又はシート (寝たて集めた想定で休憩をする物を持参)
2) 集合場所 - 武庫川河川敷(足跡) 阪急電車鉄橋南側	6) 会 費 - 430円 (FTZ)
3) 天 候 - 雨 (雨が降っている) テントの用意あり	7) その他 - 21:30 参加人員点呼をする 全員が同時に確認のできる ようにする
4) 食 事 - 『おでん』用意する 飲み物は各自持参	

一週間前に伝達してから開催幹事局は各局の交信をワッチと自ら交信をして参加人数を40～50名と見込み『おでん』40名分と鳥の唐揚げなどで50名分を用意した『おでん』火鍋4杯、テントなど器材を2台の車(JQ3TYL, JK3NVK車)に乗せ出発し現地着(18:45)器材を河川敷に運ぶ(7J3AEH, JS3QBK, JI3MLS, JI3MLU, 800W)各局の協力のもとでテント、おでん用かまど、移動局(アンテナ H-7m アルミポール)仮設照明(ポ-ダブル電機100V600W)会場設定がほぼ終わる(19:40)各局がぼつぼつ集まられてくる中 アマチュア無線局(JQ3NVK/3 尼崎)開局CQステーション運用 各局向けルート案内 20:00 時 受付開始(JI3MLS 受付担当 20:30, JK3BIY助操)で『お電波』パーティー『おでん』を食べて楽しくの会が始まる。一方移動局は順調に各局と交信を続け本日のオンエアミーティング(FTZ-FZ, No288)半局JS3HPC/3, リポート局JS3QXF/3大野山川辺郡とも交信ポート(5・9)でつながり安心していた。(大野山移動局電源はポ-ダブル電機)ところが想像もしないことが起こったのだ！ 大野山移動局と武庫川移動局とが同時に電源トラブル発生(アマチュア無線局において緊急事態発生で受信も発信もできない通断不能状態となる)大野山/3 発電機トラブル 武庫川/3はバッテリートラブルでした。状況は下図の通り

* 大野山/3 (JS3HPC) 電源トラブル発生^基香川県大川群 (JG5JIR) 傍受^受大阪市西淀川 (JQ3WGD) ^機武庫川/3 (JQ3NVK)



* 20:45 JQ3NVK/3尼崎市よりJS3HPC/3川辺郡を呼び出すも応答なし

川辺郡移動局でわ電源トラブルが発生していたのです。

20:50 尼崎市移動局 (JQ3MVK/3)も電源トラブルが発生 送受信不能となる。

21:00 JS3HPC/3川辺郡よりJQ3NVK及びFTZ-FM愛好会各局呼び掛ける JQ3NVK 応答なし

(JS3HPC/3 モービルより運用、JQ3NVK/3電源トラブルで受信不能 通断では受信可能)

21:05 JG5JIR(大川群)香川県大川群がJS3HPC/3よりのFTZ-FM愛好会各局呼び出し電波を傍受 JS3HPC/3と交信、

大野山移動局では現在電源トラブル発生中です、JQ3NVKに連絡願う電文受信
(JG5JIR香川県大川郡よりJQ3NVK/3呼び出しも応答なし 有線電話するも留守電で伝達不能)

JG5JIR - JQ3WGD (和州) 大阪西淀川区、433.10MHz で交信中を傍受、呼び掛けるも
大阪ローカル局に消され交信できず (弱い電波は強い電波に消される、これはF3 (FM) 専断形式の特徴である)
JQ3WGD局宅へ有線電話で『大野山移動局は電源トラブル発生で送信できず
JQ3NVK局に連絡願う』電文を伝達する。

JQ3WGD - 石山局長 (和州) はJQ3NVK/3に連絡をするため 433.00MHz呼び出し周波
数でコールする。---JQ3NVK/3 漢字 ハンディー機で受信 (指示は433.10MHz)
433.10MHz で交信『大野山では電源トラブル発生中』の件確認
尼崎市移動局 (JQ3NVK/3) も『電源トラブル発生で修復中』のこと大野山移
動局へ連絡を頼む---JS3IPC/3に確実に伝達していただいた。

以後 大野山移動局との連絡がとれて 両移動局の電源も修理及び代替え
で尼崎市 (和州) 移動局と兵庫県川辺群 (和州) 直接交信ができて No288
FTZ - FM愛好会オンエアミーティングを大野山より実施できた。

*その間 JS3QXF (和州/3) は携帯電話でJS3QQS (和州) に連絡 部品の搬送を依頼
JS3QQS (池田局長) は大野山向けモバイルを走らせていたのです。
途中でトラブル解消、各交信が回復したのを確認、途中引上げする。

FTZ - FM愛好会各局は433.00MHz 呼び出し周波数をよくワッチし必要な時に
最良の通信手段で伝達、対応ができることがよくわかる。

おでん波パーティーの方は多く局が受付けで参加費430円払い『おでん』食べ楽しく
アイボール中突如集合がかかる (和州) JQ3NVK) 2列横列での人数確認の点呼である
きよつけ、右へ並べ、きよつけ番号、一時の緊張を経験をしていただいて全員で参
加人数の確認をしました。最終参加局50局で最後まで残った10局程で手分け良く
後片付けも短時間で終り、楽しい収穫の多いアイボール会でした。各局ありがとう！

95 サマーアイボール会写真渡し会

盛況に終わった1995年サマーアイボール会（湯ったり愛ぼーる）の写真渡し会をしようと言うことで、写真の出来上がりの日から渡し会出来る日はいつかなあーと言うことで9月23日（土）に決まった。そして写真渡し会には、毎回サマーアイボール会に参加できなかった人、来られているので何か他の催しなどプラスして、サマーアイボール会に参加していない各局にも楽しんでもらおうと、カップメンを各自に用意してもらいそれを食べながらわいわいと楽しくアイボールしてもらおうと言うことで話が決まりました。そして、JQ3TWQ（満園氏）が月見うどんがええなあと言ったのでその案を頂きました。

9月16日（土）FTZーFM愛好会のQSPタイムに私からのQSを流してもらいたいとがあるとJQ3NVK（小中氏）に頼みました（私がQSPすればいいのですが16日から17日の間ツーリングのため不在のため）。その日、小中氏は、仕事のため帰りが遅くなるのでJQ3BY（小中氏の奥さん）にそのQSPをしてもらうことになりました。

QSP事項の内容は、写真渡し会&秋の夜長、月見うどんを食べようとして、武庫川の堤防（尼崎側）で月見うどんを食べませんかと言うことで持ち物としてカップうどん、生たまご持ってきて下さい主催者方では、お湯を用意します。但しカップラーメンを持ってこられた人は、おはお分けできませんので必ずカップうどんを持ってきて下さいQSPして下さいとJQ3TYL→JQ3NVK→JK3BY→FTZーFM愛好会各局へと連絡が伝わった。

当日9月23日私が集合場所（武庫川堤防）に到着したときには、もすでに数局が来られていました。お湯を沸かす準備、アンテナと無線の設営をしている間にたくさんの方が集まってきました。準備完了、今回夜のアイボール会では初めての試みで参加局の出席と忘物チェックをしました。

1:20現在24局の参加、いつもの写真渡しアイボール会の参加人がこの時点で集まっている。J13MLS（長友氏）がメイン付近で写真渡し会の案内をしているようでもだまだ集まってきそうと言うことでした。22:00ちょっと前から第285回FTZーFM愛好会オンアーミーティングが始まりました。本日のキー局JQ3TWQ/3尼市アイボール会場からのオンエアー、FTZでは異例の途中でのキー

局交代で J I 3 M L S、そして私の 3 局で無事 2 8 5 回オンエアミーティングは、終わりました。

参加局数 5 2 局、免許申請中者（コールサイン待ち）1 名でした。そして忘れ物チェックではカップラーメンを持ってきた人誰もいなかった箸を忘れた人 5 人、玉子を忘れた人 4 人、全部忘れた人 1 名という結果でした。一度だけの Q S P で誰もカップラーメンを持って来ずみんながカップうどんを持ってきた事は、非常に優れた伝達力があるんだなあと思いました。本当に楽しい、秋の夜長月見うどんを食べよう会になりました。

	玉子を忘れた人	箸を忘れた人	カップうどんを忘れた人
人数	5 人	6 人	1 人

P S この伝達力を活かした実験を試しますので、又各局の御協力お願いします。

J Q 3 T Y L 伊丹市 三村 昭一

1995. 01. 17. 阪神、淡路大震災発生 - 両日の交信 抜粋

JQ3NVK

JQ3NVK (伊丹)

芦屋市内のJR列車内で地震に遭遇し国道2号線ぞいで尼崎市にたどりつき、受持ち地域内で火災発生、当分団(秋鳥団) 出動中に応援出動、消防団活動と付近の整理後のアマチュア無線開局、

1 / 17

19時49分 開局

430MHz-F3E-Dにて開局各方面(関西方面) 各局の安否と被害状況の把握につとめ、次の各局20局と交信

JK3SJE JJ3W0G JJ3HWT JI30ZP JQ3R0W (西宮) JI3MLS JI3WVN (阪) JN3AJB (東灘)
JF3BFF (芦屋) 他 富田田市 大阪城東区 豊津市 豊中市 京都府管轄 高槻市 奈良県城崎 貝塚市
JE3CDV (大阪豊前郡) JQ3TYL (伊丹)

各局の無事を確認できたのですが、実は電波を出せない(もしくは)地域の住民と各局が大変だったのです。遠く京都、奈良、富田林、大阪方面からは兵庫県各局の安否を気遣っての交信で私の地域は大丈夫で西宮市、芦屋市方面は被害は大きいです。この様な範囲の伝達しかできなかつた 全体の被害状況の把握ができていなかった。声が聞こえて安心と勇気づいたと言ってもらった様です この様な交信で“今日は疲れた”と言って JQ3TYL (伊丹市) 三村局長に周波数を引き継いだそうです。

JQ3TYL (三村) (阪神大震災直後の私のアマチュア無線運用) 別紙

21時24分 JQ3NVKより引継ぎ

22時36分

JJ3MN1 / 3 (剛龍)より地震のため避難所(芦屋市立岩園小学校)の校庭からの電波を受信、岡野さんから、大阪方面の被害状況を聞かれ、兵庫県に隣接している市は多少の被害あるも大丈夫ですと、伝えると安心されました。

(JJ3MN1局よりの報告 別紙有り)

22時52分

JG3AVX (阪、加藤)と交信中

22時54分 JQ3VNX ブレークイン

JQ3VNX (阪、翻龍) 県外に住んでいる身内と連絡を取りたいが家の電話では回線がつからない 公衆電話は長蛇の列です、伊丹、尼崎、電話がつかねば連絡頼むと受信 交信中にワッチ局 山口局長(剛)が、すばやく電話をかけられうまくつながりお互いの家族の無事を確認することができた。JQ3VNX (阪、翻龍)局は傾いた家、傾いたアンテナからの交信でした。

ハム仲間による、素晴らしい連携プレーである。

J I 3 M L S (長支基地) J I 3 W V N (森田孝植)

地震発生直後より尼崎ローカル各局と交信、各局協力してガス漏れ発生等消防に通報、各局に注意するように伝達する。(レポート兼備)

1 / 18

J Q 3 N V K (小中幸雄)

22時12分 開局 J J 3 C K S (鹿、糖原) と交信、

22時21分 J P 3 M P O (神戸龍、山原) と交信中、

22時28分 J H 3 (宝塚、局長) ブレークイン

神戸の板宿付近の状況を知りたいのですが、両親が板宿の映画館サイドに住んでいるのですが、安否がわからない！

J Q 3 N V K…J P 3 M P O 板宿方面の状況判りますか？

J P 3 M P O…ひどいです！今から板宿の映画館サイドの状況確認に、単車で走りましょうか？ 単車であれば行けますので

J Q 3 N V K…お願いします！ では J H 3 局との連絡方法は？

J H 3 …電話(携帯か?) がつながると思います …局……番です、電話がだめの場合、この周波数をきいていますお願いします。

J Q 3 N V K…J P 3 M P O局 確認できましたか、さおつけてお願いします。

J P 3 M P O…了解 J H 3 局 連絡しますのでお待ちください、

J H 3 …よろしくお願いします、

J Q 3 N V K…その後各局と交信、安否確認を続ける、

J P 3 M P O、J H 3 、両局より連絡が付いたと、交信有り

J H 3 …今から板宿向き走ります、有り難うございました。

アマチュア無線伝達…単車移動調査…電話連絡…無線による連絡確認
ローカル、ハム仲間の行動力(感謝) …単車機動力…電話の確実(感謝)
各特徴をうまく使ったの連携プレーでした。(JP3MPO局レポート兼備)

J G 3 O D B (後河内聖一) J S 3 Q X F (櫻木義弘) (レポート兼備)

両局はリックサックにハンデー機をいれて、単車で西方面(西、龍、神)の生徒の安否確認に J A 3 Y B G (県立龍崎高等学校通信部) と 430MHz で連絡網を確立してたえず J A 3 Y B G 局と連絡をとりながら活動され、全員の安否を確認された。

J Q 3 W G D (山原) J H 3 A L Y (山原) 他各局は随一の通信手段であるアマ無線(430/1200MHz) 機を背中に尼崎基地局(J Q 3 N V K局)を単車自転車に乗ってFTZ-FM 愛好会各局の安否確認に走り、1200/430MHz で交信、ルート案内と安全確認をとりながら多くの各局の無事を確認できました。(レポート兼備)

ローカルFMバンドのすばらしさと、ハム仲間の心の通信のすばらしさありがとう！

FTZ-FM 愛好会各局は、以後各局の安否の確認と1/29阪神、淡路大震災義援イベント実施連絡をする、集合局(伊保-山原)60局、2/12より J 3 A M R 局運用となる。

阪神大震災直後の私のアマチュア無線運用

1月17日、地震が起こったときは少々のことでは目を覚まさないのですがこの日は目が覚めものすごい地震だったなと思って家の中を見渡したところ台所が一番被害が大きかっただけでした。そして仕事場へ行く途中、周りの風景はすさまじいものでした。仕事が終わりに、家に帰って各局の会話をワッチしようとして無線機の電源を入れると普段聞いているときより静かだなと思いました。

433.06MHzでいつもの声JQ3NVK（小中さん）の声が聞こえました。

その時、わたしはほっとしました。小中さんは、いつものように各局と交信されていました。交信内容はいつもと違い安否、被害情報の収集でした。私もその時声を掛け元気ですよと話をしました。そして小中さんは、今日は“疲れた”と言うことでこの周波数を引き継ぎました。

運用は21時24分から18日の0時26分まで各局と交信をしました。交信内容は地震の被害とか、無線局の安否情報などでした。その時心に残った交信を書きます。

17日22時36分よりJJ3MNI/3（岡野さん）芦屋市からのお声掛けです。岡野さんは、芦屋市に住んでおり、地震のため避難場所（芦屋市立岩園小学校）の校庭からのお声掛けです。岡野さんからは、大阪方面の被害状況はどの様になっているかと聞かれ、兵庫県に隣接している市は多少の被害はあるものの大丈夫ですよと、伝えると岡野さんは安心されたようです。そしてアマチュア無線で初めての人と話をしてこんな風に心が安らいだと言われました。体育館で家族が待っているのということでコンタクトを終了しました。それから以降このことをきっかけで時々こうしんをしています。

22時52分よりJG3AVX（山口さん）との交信中22時54分JQ3VNX（森川さん）のブレイク。森川さんは、芦屋市に住んでおられ身内に連絡を取りたけれど家の電話では回線がつながらないし、公衆電話は長蛇の列でと言うことで尼崎、伊丹の方から電話がつながれば連絡を取ってほしいと言われ電話番号をメモしている間に山口さんが先に電話され今電話がつながったと無線で言われ通常ではいけないがこんな時だからと言われ電話の声を無線でリンク、森川さんの声が出てくるスピーカーに受話器をつけて、家族全員元気にしていると話をされました。森川さんは、傾いた家、傾いたアンテナからの交信でした。

あと、貝塚市の方からJA3FM（鹿嶋さん）の奥家は、大丈夫だと伝えてほしいと言われました。タイミングよく鹿嶋さんが出てこられしばらく貝塚局と交信されました。等々たくさん各局とコンタクトをして、私も勇気づけられたことが沢山ありました。私が地震当日の交信で思ったことは、アマチュア無線とは電波だけじゃなく心と心がつながれば、どんどん友達の輪が広がっていくすばらしい趣味だなと思いました。

阪神大震災直後から私のアマチュア無線と行動

1月17日午前5時46分、地震が起きた。少々のことでは目を覚まさない私が目を覚ました。非常に大きな地震だったなあと思いながら家の中を見渡したところ、台所が崩壊していました。すでに仕事に出かけていた弟が家は、大丈夫かと仕事の途中で帰ってきた。そのころ私は、神戸、淡路方面で大地震が起きたという事など知る余地などなかった。私は弟から地震の状況を聞いた。

弟は、10トンダンプに乗っていて地震最初から体験したという。まず最初に雷のような青白い閃光が地面を走ったと思った瞬間ダンプが上下に飛び跳ねその後ダンプがこけるかと思うぐらい左右に振られたという。弟もアマチュア無線を運用していたのでいろいろな情報が入ってきたものは、国道171号線門戸厄神高架橋がおちている、そして阪急伊丹駅が崩れていると聞き、その情報と共に家に帰ってきた。

そして私は仕事場に行く途中の周りの風景は爆弾でも落とされた様に見えた。私の仕事は、オートバイ、自転車の修理販売ですが展示中のオートバイ、自転車は、所狭しと繰れ回っていました。この日は店の中の整理で終わり家に帰って各局の会話を聞こうと無線機の電源を入れると普段よりも静かだった。

433。06いつもの声、JQ3NVK（小中氏）の声が聞こえてきました。その瞬間、ほっとしました。小中さんは、いつものように各局と交信をされていました。交信内容は、いつもとは違い各局の安否、被害情報の収集でした。私も声を掛けげんきにしてますよと話をしました。そして小中さんは、今日は疲れたと言うことでこの周波数を引継運用をしました。運用は、21時24分から18日の0時26分まで各局と交信しました。交信内容は地震の被害とか、無線局の安否情報などでした。その時、心に残った交信を書きます。

17日22時36分 JJ3MNT/3（岡野氏）芦屋市からのお声掛けです。岡野さんは、芦屋市に住んでおられ、地震のため避難所（芦屋市立岩国小学校）の校庭から電波を出しているとのこと。岡野さんは、大阪方面の被害状況はどの様になっているかと聞かれ、兵庫県に隣接している市は多少の被害はあるものの大丈夫ですよと、伝えると、岡野さんは安心されたようです。そしてアマチュア無線で初めての人と話をして、こんな風に心が安らいだと言われました。体躯館で家族が待っているのと交信を終わりました。岡野さんとはこの交信をきっかけで数回交信しました。今は、常置場所から出ておられています。

22時52分よりJG3AVX（山口氏）との交信中22時54分JQ3VNX（森川氏）のブレイク。森川さんは芦屋市に住んでおられ、親戚に連絡を取りたいけれど家の電話では回線がつながらないし、公衆電話は長蛇の列で電話が掛けられないので尼崎

市、伊丹市から電話がつながれば連絡を取ってほしい、電話番号をメモしている間に山口さんが先にでんわされて、今電話がつながったと無線で言われ、普通ではいけないがこんな時だからと電話の声を無線でリンク、森川さんの声が出てくるスピーカーに受話器をつけて、家族全員元気になっていると話をされました。森川さんは、傾いた家、傾いたアンテナからの交信でした。

後、貝塚市の局長から J A 3 F M (鹿嶋氏) の実家は、大丈夫だと伝えてほしいと言われました。タイミングよく鹿嶋さんが出てこられしばらく貝塚市の方と交信されました。震災直後に沢山の方と交信をして、私も勇気づけられたことが沢山ありました。

地震より 2、3 日がたち、オートバイを買い求める人がぼつぼつと目立ち始めました西宮市の会社から、自転車を 20 台ほしいと電話が入った。それを納車のため 2 台の軽トラックに積み、西宮へ向かった。道路は混雑し、車の間をすり抜けていく。オートバイが今まで見たことないほどの数が道路狭しと走っていく。西宮の会社に到着、会社の人にこの自転車をなにに使うのですか、と聞くと自転車で出社してもらうんですと言っていました。

それから数日の間にオートバイは数十台、自転車は十数台売れました。みんなは、身の回りのことが落ち着くと、次には会社への出勤を考えたと思います。普段、電車、バスなどの公共の交通手段で出勤していた人たちは、車では出勤できずオートバイ、自転車で行こうと考えたみたいです。そのため私は仕事に追われアマチュア無線の運用はあまり出来なかった。1月21日(土)21時に仲の良いオートバイ乗り2名と私の3人で西宮に住む無線家の家を訪ねる事を計画した。この日は地震後初めての F T Z - F M 愛好会のオンエアーミーティングがありその時間内に見つかればいいのだが、2つ、3つの避難所を回ったが見つからなかった。1月20日、F T Z - F M 愛好会の新年アイボール会を義援アイボール会に変更してアイボール会を行った。その時に21日に探しに行った西宮局の消息が分かった。神戸北区の方へ避難されているようだった。アイボール会では、今の神戸方面の状態、これから何をしたらいいのかの話し合いが夕方まで続きました。義援アイボール会から2週間後私は西宮で 8 J 3 A M R 西宮現地事務所ボランティアに参加しました。

P S アマチュア無線は、電波だけじゃなくて、心と心がつながっていくすばらしい趣味だと思いました。

J Q 3 T Y L 伊丹市 三村 昭一

FTZ-FM 愛好会
幹事局

震災時に思ったこと

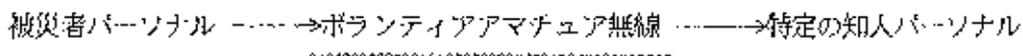
1. 直後(家人の安全と部屋の整理をした後)・・・午前7時頃、バッテリーは健在だったので、非常通信の確認のためメイン・ワッチするも、モバイル局と被害の軽かった地域の局を中心とする混乱。
2. ごく少数火災、人命救助の「非常」を前置しない。しかし、一聴して現場のせっぱ詰まった状況が想像できるあわただしさの通信が入感する。
これらは多分、ハンディ機によるものであり、通信の目的を達成するためには第三者のしかるべき中継が必要と思われるが、QTHの確認もできぬまま(どこからのSOSかもわからない)QRZにかき消されてしまった。
残念なことに、たとえ当局がコンタクト出来てその内容の中継しようにも、消防や救急はその一件一件には対処できる状態ではなく、又はその119番すらかからないのであった。
3. 反省としては、非常通信はメイン周波数で行われるものにとらわれてしまって、433,000MHz以外をワッチしなかった事。
ひょっとしたら、どこかで、もしかしたら奇数周波数で有効な交信が行えたかもしれない。
4. ラジオの情報も混乱していたが、私的なものや超悪質ハレンチ無智な妨害が入らないだけでも安心して聞けた。
5. 結局、非常通信の受信・中継をあきらめ、ひたすら正しい情報を求めるためには、商業放送に頼るしかなかった。
6. 食料や水、毛布、ガスカートリッジetc.物質の供給は公的機関でなされると思った。電話回線が非常にパニックになっていた。(初日から5日目くらいまで)
被災して命が助かった人の最初の仕事は、自分の無事を家族や知人に知らせる事であった。(これは通信である)その通信業務がパニックだったので、同じ通信業務を司るアマチュア無線家として役に立てないかと考えた。私の考えは、芦屋展望台あたりに移動局を設置して、被災地内から発放されるハンディ機による交信を中継又は、援護する。特に、安否情報については、個人のプライバシーにも関わるが、事の重要性から考えて他人の依頼による交信、電話番号の秘密を守るための乱数表の使用を前提とした暗号の禁止等々の電波法に反しても、実行すべきだと思っていました。

7. しかし、現地の様子を耳にし、目に(TVで)するにつれ、自分がノコノコと車に出て行く事こそ混乱の一因であるかと考え、一週間後に自転車で西宮へ足を踏み入れるまで、行動を自粛しておりました。

8. NHK12chによる安否情報の効果を考えてみると、



中間部には非常に無駄も多いながら、有効であった事を考えると



終始個人の要望にそって動き、個人の秘密を守ることが出来れば非常に有効であったかも知れません。多くのボランティア局の協力が不可欠ですが・・・

9. 今回特に痛感したのは、電話(P3 etc)による情報伝報は確実性に乏しく、データがストック出来ない事です。従ってF2によるパケット通信が、特に外側から被災地を支援しようとする無線局には不可欠と思われます。ただし、文章として発表されたものは、内容が伴っていないくてもそれらしく見えるという欠点や、支援局から現地の個人個人へはもちろんパケットではなく、ペーパーコピーで内容のしっかりしたものを速やかに伝える事は忘れてはなりません。

10. 最後に。

正直に告白すると、以上のような事は非常時には全てJARLの本部が承知しており、マニュアルもあり、そのための非常通信訓練であり、支部であり、組織であり、過去に実績もあり、任せておけば良いと思っていました。(勿論、自分は何もしないというつもりではありません)しかしながら、所詮アマチュアは素人であり続けなければならないのでしょうか？

考えようによっては、アマチュア無線局は本来の職業を持ち(その道ではプロ)その上に、無線技術を修得しているわけです。おまけに無線以外にも多くの特技を持ち、友人、知人の多い人の集まりです。こんなに頼りになる素人の組織が他にあるのでしょうか。

もっと役に立てたかも知れないと、唇をかみしめながらもできるだけ事はやったのだと自分に言い聞かせながら・・・

J Q 3 T W Q 満園 聡

1月17日地震当日、私はたまたま休日であった。地鳴りの音で目覚め、最初の揺れで「これは大きな地震だ」と感じ、となりに寝ている夫にしがみついていた。揺れがおさまり真っ暗闇の中手探りで懐中電灯を探し、自分の周りを見るゆとりも無く、夫共々子供の部屋に飛んでいったところ、長女の部屋の扉はタンスが倒れかかり開かなかった。廊下から子供の名前を呼んだ所返事はあるが動けないと言うことで、夫と2人で扉をこじ開け入って見ると長女のベッドには本棚が倒れガラスが散乱し、その下で「お母さん！助けて！」と泣いていた。夢中で本棚を起こし、散乱した木やガラスを片づけ長女を助け出した。次女の部屋は無事であった。家具の配置が幸いしたのだろう。散乱した部屋の中から毛布を引っ張り出し子供に被せ、ガラスで足を切らぬよう靴をはかせた。外では非常ベルが鳴り響き、「避難場所は小学校です」と誰かが叫んでいた。夫は「何とかマンションは大丈夫そうだからこのままここで待機しよう。外は何が落ちてくるかわからないからかえって危険かも知れない。」と言うことで家の中で待機することにした。取り合えず避難用の荷物を造り、もし家族がバラバラになった時は小学校で落ち合う約束をした。この間時間の感覚はなく、気がつけば外が明るくなっていった。電気も回復し、テレビでは地震の悲惨さを伝えていた。気持ちが少し落ちついてきた頃職場のことが気になりだした。しかし正直なところ今家族をおいて職場に駆けつけるという気持ちになかなか出来なかった。子供達は恐怖に震え、親のそばを離れようとしない。そんな子供を置いて・・・でも私は看護婦だから救命活動の応援に行かなければ・・・こんな気持ちの葛藤をしているときテレビで自分の病院の崩壊を伝える報道が流れてきた。「行かなければ」そう決断し夫を見ると「家のことはいいから行って来い。何かあれば小学校で待っているから」と言ってくれた。子供を説得し、バイクに乗って病院に駆けつけた。

病院はまるで野戦病院のようで非常用自家発電のみの明るさの中懸命な救命活動に当たっていた。いつもの待合いの椅子は簡易ベッドとなり、あちこちで看護婦がすでに処置に当たり、次々と来院する患者で騒然としていた。また更衣室の向かいにある会議室が霊安室に変わり、その廊下では家族が呆然とした表情で座っていた。婦長から外来はいいから病棟の応援に当たるよう支持され、エレベーターが機能していなかったので階段で7階まで駆け上がった。そこもいつもの職場とは違い廊下は水道管が破裂して水浸しになっているし、詰め所の中は点滴の瓶や心電図モニターなど棚に置いてある全てのものが落ちて散乱し、唖然とした。しかし幸いなことに入院患者さんにけが人はなく面会ルームに搬送は終わっておりほっとした。駆けつけた看護婦全員で手分けをし片づけを終えた。

面会ルームでは家族の安否確認のため、公衆電話に列ができていた。私も両親や姉妹の安否確認の電話をしたかったけれど、長い列に並ぶ時間のゆとりがなかった。病院に駆けつけた今ここで大きな余震が来れば、夫や子供達と連絡が取れない。そんな思いから私は無線の免許を取る決心をした。

無線の免許を取る決心をした当初は個人的な思いからであったが、その後色々な情報収集が必要であることに気がついた。テレビでは一方的に情報は流してくれるが、こちらが欲しいと思っている情報はなかなか入って来ない。今回FTZ-FM愛好会を通じて色々な方と情報交換ができることを知り、非常時には一刻でも早く情報を入手し、整理して活用していく必要性を感じた。

そこで今回の震災を振り返りどんな情報が必要であったかを整理してみた。

今回の震災では神戸に被害が集中しており、テレビでは神戸での被害状況に集中していた。しかしもっと身近な情報として地域別な被害状況が欲しかった。自分の住む町の道路被害や公共施設の被害状況である。

医療面で言えば、例えばけが人などはどこの病院で見てくれるとか、どの道が寸断されているからどの道が通れるとか（病院、医院によっては被害が大きく機能してい無いところもあり、出向いても開いておらずまた次の病院を探すと行ったロスを生じる事もある等）また病院間での連絡として救急活動をしておれば応援要請とか転院など受け入れ状況

はどうか。また足りない薬品状況(地震で壊れたりまた在庫ができなかったりで不足していたりしたため)の情報交換をしてお互いに助け合えたのではないかと。

日常生活面で言えば少し離れた尼崎や大阪では食料の調達ができることやお風呂にも入れたなど情報があれば被災地域で殺到や混雑は避けられたのではないだろうか。また赤ちゃんのいる家庭ではミルクやおしめなどもどこで揃えることができるか等の情報も必要ではないかと思う。

また私の家庭のように昼間は救助活動等で留守の場合、広報車からの情報が得られないためどこで水や食糧の配給があるのか解らなかつたりする為、夜間にも情報を流してくれるとありがたいと思う。

遠距離通学をしている学生にとって、学校と連絡が取れず休校なのか登校しなければならないのか解らなかつたという意見も聞いた。そんなときも近くのアマチュア無線家の人が学校の状況を流してくれるとありがたいと思う。

以上色々なことを書いたが、情報を交換するアクセスの方法や手段などこれからもいろいろと取り決めていかなければならない事が多いと思う。今後二度とあっては行けない災害ではあるが、災害はいつ起こることも限らず万が一災害が起これば即活動できるよう日頃より訓練が必要であると思う。今後ともFTZ-FM愛好会のますますの御発展を心より願っております。

JL3FRP 上原 美代子

小中幸雄様 (JQ3NVK)

前略 先日は初QSO誠にありがとうございました。当日、ご依頼のありました震災時の様子、大変稚拙な文章で申し訳ございませんが、送らせていただきます。

ご依頼の主旨に添わないようでしたら、破棄していただければと思います。

これからもよろしく願いいたします。

〒659 兵庫県芦屋市浜町10-3-A

岡野伸仲 (JJ3MN1)

1995.09.05

どうも文章は苦手です。アイボールの機会があればその時に、口答でお話しさせていただければと思います。色々お話しできると思います。

娘の震災後初めての通勤時間、7時間等々・・・

以下の文章は、当時色々な紙切れにメモしておいたものの一部を、そのまま書き写したものです。震災当時の精神状態の中で認めたものです。大変読みにくいと思いますが、同封しておきます。

*1月17日 PM~夜

給水車の後ろに長蛇の列、おにぎりの配給。

やたらと喧しく鳴り響くサイレン音、黒煙を上げて燃え盛る炎、屋根瓦が全て落ち一階部分がつぶれ、二階部分が道路脇に。また全壊した民家、斜めに傾いた電柱。一、二階部分がつぶれた六階建てマンション、塀がそこらやたらで倒れ、パンの配給にダッシュ。避難場所に続々と集まる被災者・・・

全てブラウン管の中の出来事と考えていた。俺の目の前に現実として広がっている。

*避難場所になっている小学校の多目的ホールは、新築間もない方は既に満員で、入ることが出来ない。仕方なく、1日多目的ホールに行くが、ここは先ほどの所とは違い、まだまだ余裕がある。場所を確保し、校庭に出て、アマチュア無線をワッチ、10:38分 JQ3TYL局さんと交信することが出来、ファーストコンタクトであるにも拘わらず、快く応答していただき、また併せて貴重な情報を得ることが出来た。その中でも「大阪の被害は、三宮、芦屋、西宮と比べると、ずっと少ないらしいですよ！」と言う情報は、何といっても心を落ちつかせる最良の情報であった。芦屋がこれ程なのであるから、大阪の被害は当然、壊滅状態であろうと想像していたからである。この交信の後は、食糧の配給や給水にも慌てる事なく冷静に、行動出来るようになった。昨年8月に免許を取得したばかりのアマチュア無線であるが、本当にやっていて良かったと思う。

*水の確保、1日出来ず。

2日目、滋賀県からの給水車4台と夕方自衛隊の給水車3～4台が到着。長蛇の列が続く。

食料に類しては1日日夜、給食用コッペパン半分と細いソーセージ半分。

2日目おにぎり1コとコッペパン1つ・・・といった状況。お年寄りにはこの配給、給水は大変な重労働である。遅れてきたお年寄りには受け取れたのか、心が痛む。

1日目の夜。避難場所は朝まで静まることはなかった。兎に角寒い、ラジオからは氷点下を下回ったことが流れている。

シュラフではなく、毛布だけの女房や娘はあまりの寒さで、なかなか眠りにつけない様子である。相変わらず余震が続く。無気味である。女房殿がお年寄りにホカロンを被す。

*2日目の夜。

全員、昨日来の疲れが出たのか、浅い眠りに入る。静かだ。時々大きな余震が来ると、その度にいびきが止まり、そして半数以上の人起床上がり、周囲を見回す。安全を確認して再び浅い眠りにつく。揺れに関して全員が、異常なまでに神経質になっている。

今、シュラフの中で横になり、こうして書いていても、揺れを錯覚し地震ではないかとビクッとする。2日目の夜が明けようとしている。

*ガラスが散乱しているからとは云え、10年来住んできた部屋の中を土足で歩かなければならない。借けなさは、無念で何ともいえない気持ちでいっぱいである。

*仮設トイレが2日目夜できた。ここでもお年寄りが苦勞していた。

*ヘリコプター輸送を、なぜしないのか？

*自衛隊の力は大きい。

*イカリスーパーが在庫品を震災当日、無料配布。

素早い判断力に脱帽。それにしても従業員の方の家族は大丈夫なのかな、気にかかる。

避難所のお年寄りにも届けてくれたかな？少々気にかかった。

*大阪の仮住まいから毎日、芦屋の家に片づけに行った。大阪と芦屋を行き来していると、淀川を境にして両方の街の様子があまりにも違いすぎ、そのギャップの大きさについて行けず、精神的にバランスがとれず、毎日が渡れる。子供達からも笑顔が無くなった。

*解体した物がマンション跡地は、小さな四角いサラ地だった。

※まだまだ沢山あるのですが、今回はこの辺でご無礼します。このような文章でよろしかったのでしょうか？うまく書けず申し訳なく思います。

どんな著名な作家が、どんな言葉で書き綴っても、今回の光景差的確に表現する事は出来ないだろう。

1995.01.17 5:46 まだ正月気分が抜けきらない未明に突然襲ったあの嵐々しい出来事は、一生踵忘れる事の出来ない晴い思い出として脳裏に焼き付いてしまった。

目覚まし時計のけたたましいベネの音に目を醒まし、暫くうとうとしているときに小さな揺れを感じた。

「ン」 「地震かな？」 と思う間もなく上下、左右、前後に50センチ程揺り動かされた。

実は、最初の小さな揺れがあった時、同時に「いつもの地震とは違う」「」と直感した。

今考えるとそれは動物的な本能のように感じる。

すぐに立ち上がろうとするが、全く身体の自由が利かない。

グラ「グラ「グラと貰った生優しい揺れではない。正にガクン「ガクン「ガクン「ガクン「と貰った衝撃である。

ほんの10秒間の短い間の出来事が終わり、小さな揺れがしばらくの間続き、そして悪夢が終わった。

これは絶対夢なんだと自分に言い聞かせようとするが、どうしても頭の中が整理できない。

今、自分はどういう状態で何をしているのか、そして何をしようとしているのか、いや、何をすべきなのかが全く理解できないのである。

とてつもない出来事に遭遇したのだと言う感じはあるのであるが……。

この混乱中、整理できない頭の中に「お父さん」「お父さん」と叫ぶ次女の声が隣室から聞こえてきた。

全てが手探りの中、隣室にたどり着くが、暗闇の中で何処に（何に）焦点を合わせればいいのか、その対象物が何もみえない。

目の焦点が合わないような錯覚にとらわれる。いや、事実目の焦点は合っていないように記憶している。

どうも足が地に踏いていない感じである。

崩壊とした世界に突然放り出された様な、不思議な匂いのするなにも言えない
気持ちの頭の中を充滿する。

「お父さん！！ お父さん！！」 掛断ねらず次女の叫ぶ声がする。
どのような状態になっているのか、暫くの間全く見当もつかない。
気は焦るばかりである。

正に噴申橋際の中、倒れているタンスの一部に手が触れた。

徐々にここの状態が掴めてきた。

次女は倒れたタンスの下敷きになっているらしい。

「大丈夫か！！」の問いかけに

「うん 大丈夫、お父さん早く助けて！！」

「両がしっかりしている大丈夫だ」

自分に言い聞かせるが、まだ全身に感觸が戻って来ない。自分の身体のような感
じがしない。

何とかしてタンスを押し退け次女を助け出す事が出来た。

タンスの下小さな隙間に小さくなっていて難を逃れたのである。

今考えると、マンション内で火が出なかった事が幸いした。

耳が一火が出て、煙でも充満していたらと考えると、背筋が寒くなる思いである。
これが悪夢の始まりである。

何度も何度もその時の事を繰り返し思い返すが、自からの情報はしっかりと覚えて
いるのだが……とは言っても真つ情報でほとんど確証する事はできなかつた
のであるが……、耳に記憶している音（声）はどうしても次女の「お父さん！！
お父さん！！」と言う声以外何も思い出せない。

あの時間帯に家の中の余てのものが倒れ、マンション周辺の数多くの家屋が倒壊
した訳である。

相当な音がしていたであろう筈なのに、次女の叫ぶ声以外何も耳に残っていない。

余りの出来事に耳の回路が壊れ、正常に働かなかつたようである。

落ち着いていたつもりであったが、相当なパニック状態であつたようである。

家族全員の無事を確認したと同時に、風が地につきそして皮膚の感觸が戻って不

感觸が正常に働くようになった。 *それと同時感觸が(本身中に蘇った。*

また、同じ様な規模の地震がきたら家族全員無事である自信が無い。

*長女の「お父さん、マユミヨユア人達全員を確保してあげるから！！！！」の
声で"地"に帰る、と。*

涙が止まらない

夜明けと共に目を覆いたくなるような惨状が、舌広なしに目に飛び込んでくる。マンション前の二階建てのお米やさんの2/3が無惨にもベレヤんに潰れ、ご主人が頭から血を流しながら家族の無事を確認している。

周辺だけでも10軒程の家が全壊しており、中に人が居るといふ事がわかっているが助ける事が出来ない。

そんな光景を見る度に涙が出て、心の中で「頑張れ！！」と叫ぶ以外何もできない自分の情けなさが後ろめたく感じたりした。

私の住んでいたマンションは、相当古かったが3階建て鉄骨だった為、住む事は出来なくなったが倒壊するまでにはいたらなかった。

近くの6~7階建てマンション2棟は、1棟は、1階部分がつぶれ、もう1棟も1・2階部分がつぶれ、両マンションともに地震発生直後から出火し、2昼夜にわたって燃え続けていた。

近くの路上で、それこそ着の身着のままの状態でしゃがみ込み、呆然として燃え続けるマンションを眺めている一人の女性が印象的だった。

暫くして、駐車場をお借りしている大家さんの奥さんが生き埋めになったとの情報がいった。

そして3日後、手と足が見えたと言われ………に冥福を祈るしかない。

それから数日後、全壊し、瓦礫となった家の前に、かけがえの無い連れ合いを無くした一人の老人が肩を落とす、何かを誰かに話しかけてでもいるような姿で佇んでいるのを目撃した。大家さんのご主人だった。

思わず「クソ！！クソ！！」と何度も何度も繰り返した。

駐車場前の倒壊した家でも奥さんが亡くなったとの事である。

それ以上周りの情報を聞く勇気がなくなってしまった。

子供を亡くした親、親を亡くした子供その他色々な所で数えきれないほどの様々な悲劇が、あの10秒間という短い時間に生まれた。

救急車が、サイレンを鳴らしながらそばを通る。

思わず「がんばれよ！！」っと声を出せる。

見なかった。

地震発生直後、娘の部屋に行くがまったくの間の中、家内に

「懐中電灯を持ってきてくれ、いつもの所にあるから早く！」

「お父さん、何処にあるの何処にもないよ！」

「なにしているんだ、早くしろ！」 本棚にあるだろ」

「無いよ、無い」

こんな会話の後、荷立つ気持ちを抑え探しに行くが、見つかる苦がなかった。

本棚は倒れ、割れたガラスや本が部屋中いっばいに散らかり、その上に同じようにガラスの割れたサイドボードが重なり倒れていたのである。

そんな状況の中、真っ暗闇の中、懐中電灯を手探りで探し出すのは至難の技ともいえる。

準備しているそれらの物は、袋に入れて置くのが一番いい。

そして、色々な物の下敷きにならず、すぐ取り出せるところに置くのがいいだろう。

ブラウン間の中だけの世界として捉えていた災害対策は、準備した物の起き場所までは気を回せなかった当然の結果である。

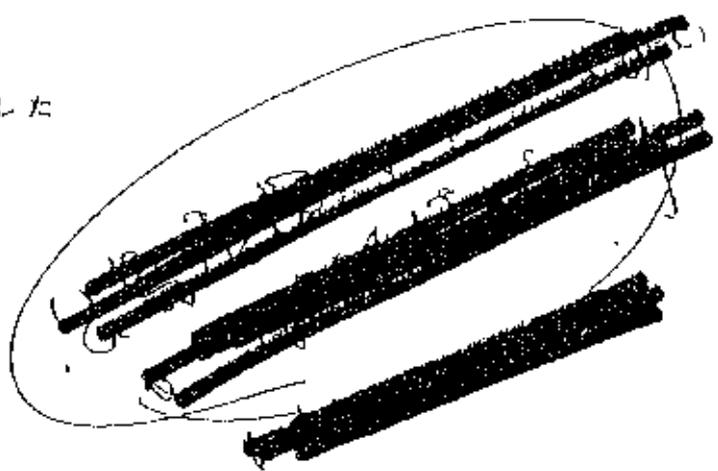
~~.....~~
~~.....~~
~~.....~~
~~.....~~
~~.....~~

~~.....~~

~~.....~~

風化してはいけない大災害

いつまでも5時46分で止まった時計
その日のうちにカメラでわが家を記録した



以下の文章は、当時色々の紙切りにメモしてあった
ものの一部を、そのまま書き写したものであろう。

震災当時の精神状態の中での認めたものである。

大抵読みにくくは思いますが、同封しておきます。

1月17日 PM. ~ 夜

給水車の後ろに長蛇の列。おにぎりの配給もたろせ。
喧しく鳴りこめく。サイレン音。黒煙を上げ、燃え盛る炎。
屋根の瓦が金で落ち、一階部分がつぶれ、二階部分が
道路脇に、又、全壊した民家、斜めに傾いた電柱。
一、二階部分がつぶれた六階建てのマンション。塀が
そこそこたれて倒れ、パンの配給にラッシュ、避難場所
にぞくぞくと集まる被災者……

全二、三階の管の中の出発事を考へていた。俺の目前に
現実が降りかかってくる。

避難所には、21日、小学校の多目的ホールは、新築
間もない。元は既に満員で、入り事が出ない。

仕方なく、旧多目的ホールに行く。ここは先程の所とは
違ひ、まだまだ余裕がある。

塀所の確保し、校庭に出る。アマチュア無線機を70%

10:38分 J@3TYL局工場の交信が事々出来. 7-21
ゴウクトで"あはにも拘わらず" 心高く応答していった様子.
又. 合わせ. 貴重情報を得た事々出来た.

その中では「大阪の被害は. 三宮, 芦屋, 西宮を位ハハと
おぼえ. 少ないらしい" ですよ」 と言う情報は. 何と
云うとも. 心を落さ付かせた最高の情報であった.

芦屋の"二ヶ程" であらう. 大阪の被害は. 当然. 増減
状態であらうと想像していった.

この交信の後. 倉糧の西己給や給水にも. 慌てず
冷静に行動出来た様には. なる.

昨年6月に取得した"011の Pマテ P無線" であらう.
本当は. ちゃんと使われていたと思う.

水の確保. 1日目出来ず.
2日目 滋賀県からの給水車4台. 夕方 自衛隊の給水車
3~4台. 到着. 甚だしい状況.
倉糧に到着は. 1日目夜. 給金額用このハハ上半分と. 給水
1-2-3-4.

2日目 水は足り. 17時. このハハ上半分... と言う状況
お年寄りにはこの西己給. 給水は 大々量準備してある.
届けに来たお年寄りは 受け取れた^合たのか. 心は"痛い"

1日目の夜. 避難場所には. 朝迄静まり事は何もない。
兎に角寒い。うしろをかきかき. 氷臭下を 下廻り. 氷臭が流れて
くる。

このころは. 毛布を1枚の女房や娘は 2枚の寒さで
たかたか 眠りにつけようとする。

相違なく ~~も~~ 余震が 続く。無気味である。

女房殿が 子供を寄せて 人に 声をかける。

2日目の夜

全員 昨日の疲れから 出た。浅い 眠りに入り。
静かだ。

時と とき 余震が 来る。4度ほど. 10分ほど 止まり。

4.2 半数以上の人 走り出す。窓を 見廻す。

安全を 確認して. 浅い 眠りにつく。

揺れに 関して 全員が. 異常な までに 神経質に
なる。

今. このころ 中で ~~揺れ~~ 揺れに 入り. このころ 揺れ くる。

揺れを 覚悟 ~~し~~ して. 揺れ する たびに ~~びく~~ びく. する。

2日目の夜 ~~も~~ 明けよう としている。

① かなり早く散居して1211のりさへはふさ。 [REDACTED]
 10年来住んで来た。部屋の中を土足で歩いた、けしは「たすた
 情けなさは。無念でさへもふさふさ。息持てず」いふは「いふ」
 様子。

② 飯沼トシロ 2日日夜出ま。ここでもお年寄りの「昔ながら」

③ へいごつと一輪送をたて「いふ」のりさ?

④ 自衛隊のりさ文さ。

⑤ へいごつと一輪送のりさを 燃炭当日無半面分布。
 素早や、心算にた膨れ帽。 へいごつと一輪送
 従軍員の方の家族は又丈夫たのりさ。 兵にかかた。
 避難場所のお年寄りにて福は「いふ」のりさ?
 少く兵にかかた。

⑥ 大阪の飯沼「いふ」 毎日片足の家に行けに行つた。
 大阪の片足を 行来行来して「いふ」のりさ。 遊川を境にして
 両方の往行の様子を「いふ」のりさ。 へいごつと一輪送のりさの大きさに
 ついて行け「いふ」。 精神は「いふ」のりさ。 毎日「いふ」のりさ。
 子供達から 笑顔の 全く「いふ」のりさ。

⑦ 解体した物のりさ 2つ2つ 踏み地は。 小い田圃のりさ。 けし「いふ」のりさ。

※ まぢまぢ 沢山のりさのりさ。 今度はこのりさ「いふ」のりさ
 し「いふ」。 このりさは文章で「いふ」のりさのりさのりさ?
 うぢ「いふ」のりさ「いふ」のりさ。